

文化評論

1987 No.318

〈徹底批判〉勝共連合・靈感商法 第二弾

恐るべき「靈感政治」の浸透 青木 慧
 法廷記録が暴いた詐欺商法の全貌 安保嘉博
 わが「原理」とのたたかい 座談会＝浅見定雄・駒木悠二・日隈威徳
 キャンパスで「原理」は今… 篠田 清
 勝共連合の国家機密法策動 茶本繁正

民衆の決起と激動の韓国

萩原 遼

「アジア主義」の復権と「現代の超克」

吉本隆明批判 中村泰行

9 増大号

文化評論

No.318

徹底批判 勝共連合・靈感商法 第二弾

9

1987

一九六二年三月二十六日第三種郵便物認可
一九八七年九月一日（毎月一回一日）発行

文化評論

通巻第318号

特別定価六八〇円（送料七〇円）

1 天皇制批判について

近刊／四六判上製箱入／定価2400円 300

「天皇制批判について」をはじめ時代に先駆けて日本の民主的変革の根本問題を論じた論考を収録。

2 民主民族戦線の展開〈続刊〉

3 五〇年問題の問題点から〈続刊〉

新日本出版社 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6
03(423)8402-4 振替東京13681

近日刊行開始！

戦後日本の民主的再成への情熱が脈打つ、透徹した時代洞察と科学的先見性にみちた歴史的論考集。

戦後初期論集

宮本顕治 全3巻

不破哲三政策論集



具体例で示す
 地方政治分析
 政策活動論

地方政治の争点と選択

四六判上製／定価2500円 300

いつせいで方選挙中心に著者の都道府県政論、市政論を集大成。選挙戦の準備段階から道府県議選告示以後まで全国各地でおこなった政策演説、論文、インタビューなど40編のほか、演説準備メモ9編を初めて収録。巻頭に、政策演説の準備についての「方法論」をまとめた書き下ろし論考「地方政治にとりくむ」を収める。前著「政策活動入門」の実践的応用版。議員、自治体・住民運動関係者必携！

政策活動入門

不破哲三著

四六判／定価700円 200

日本共産党の政策——その豊富で、創造的な展開の先頭に立ってきた著者による政策活動論の集大成！

新日本出版社 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6
03(423)8402-4 振替東京13681

発行所

株式会社

新日本出版社

編集兼発行人

山本

郵便番号 151

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6

電話 編集03(423)9329 営業03(423)8402

振替 東京3-136

No. 259 (1/5)

〈特集〉徹底批判 勝共連合・靈感商法

■特集■〈徹底批判〉勝共連合・靈感商法 第二弾

恐るべき「霊感政治」の浸透

アジア共同体構想こそ
日本が真の大国になる道



□首相が祝電の日韓トンネル調査坑起工式

昨年十月一日、国際ハイウェイ建設事業団なる団体が、佐賀県西町の極東開発名護屋試験場で国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネルの調査斜坑の起工式を開催した。中曽根康弘首相をはじめ、次期政権を狙う竹下登自民党幹事長ら政界の要人らが、祝電を寄せた。空前の巨大プロジェクトにあわよくば相乗りしようと、熊谷組などの建設開発関係の企業も、公式、非公式に代表を列席させた。

だが、実際に起工式に集合したのは、文鮮明を教祖とする

日韓両国の統一協会（世界基督教統一神霊協会）と国際勝共連合（IFVOC）をはじめ、その偽装関連団体の最高幹部がほとんどだった。起工式を主催した国際ハイウェイ建設事業団の久保木修己会長自身が、日本統一協会と日本の国際勝共連合の会長を兼務し、統一協会・勝共連合の豊富な資金を貯めこんでいる国際文化財団の理事長でもあった。

韓国側からは、世界平和教授協議会の李恒寧会長（前弘益大学総長）や日韓トンネル研究会韓国支部長の尹世元（成和神学校校長）らが列席。彼らも韓国の統一協会と勝共連合、またその偽装関連団体の最高幹部だった。韓国では、この起工

式直後に日韓トンネル研究会韓国支部が国際ハイウェイ研究会に衣替えし、尹支部長がその会長におさまった。のちにみるように、彼らは韓国の民主化反対運動の先頭に立つ。

世界平和教授協議会というのは、日本の世界平和教授アカデミー（PPA、以後はアカデミーと略称）に相当し、ともに統一協会と勝共連合系の学者・知識人の偽装関連組織。

日韓トンネル研究会も、日本ではもともとアカデミーの一部門として発足、八三年五月に分離・独立した。会長は、「青函トンネル建設を指導した」というふれこみで、佐々保雄（北海道大学名誉教授）が就任。彼も、勝共連合直轄の全国教授勝共講師団（以後は勝共教授団）理事と北海道勝共教授団会長になっている。

日韓トンネル研究会は、国際ハイウェイ建設事業団と一心同体の二重組織で、ともに文鮮明の意向をそのままトンネルして「事業化」したトンネル団体。かつては、日本の勝共連合の週刊機関紙「思想新聞」も、「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル 日韓勝共会員で実現を」（八四年六月三日付）などと呼びかけていた。

統一協会は、いかにも宗教団体であるかのように、さまざまな分野の「統一」を掲げて「宗教活動」を展開。その「政治団体」版の勝共連合も、それらしい「政治活動」をつづけている。だが、資金稼ぎの「靈感商法」なども、彼らが「経済活動」と呼んでいるのと同様で、「政治活動」の実態も、「靈感政治」とでも名付けるべきものとなっている。

彼らの国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル建設構

想は、文鮮明の「宗教」的教義とその実行をめざす「政治」目標を「事業化」したものであるとともに、その資金稼ぎの「経済活動」の一環でもある。まずはこの「事業」を例に、彼らの「宗教活動」や「政治活動」「経済活動」などに隠されている謀略を明らかにしておこう。

□ハイウェイ網は文鮮明の地上天国への早道

日韓トンネル研究会は、今年五月二十五日に東京・新宿の京王プラザホテルで第五回総会を開いた。それを報じる「思想新聞」（六月七日付）は、「国際ハイウェイ構想とは」という一文をつけ、彼ら自身がつぎのように要約している。

〈国際ハイウェイ構想は一九八一年十一月、ソウルで開かれた「第十回科学の統一に関する国際会議（ICUS）」で、同会議の提唱者であり、本連合（勝共連合）の創設者でもある文鮮明師によって提唱されたもの。世界各国をハイウェイでつなぎ、高速輸送のネットワークによって全世界を一日生活圏にしようという膨大な計画である。〉

この構想を実現するための第一段階として、現在、日本、韓国、中国を結ぶ東アジアハイウェイが計画されており、その中でも日韓両国を結ぶ日韓トンネル建設が具体化に向けて動き出している。

アジア共同体構想が摸索されている今日、アジア全体の繁栄のため、日本がこの巨大プロジェクトの先頭に立って奉仕的にこの事業を進めていくならば、日本人のアジア諸国に対する信頼は高まり、日本が将来に生き残る道にもつ

恐るべき「靈感政治」の浸透

〈特集〉徹底批判 勝共連合・靈感商法

ながってゆくものと期待されている。

ここにも明記しているとおり、すべて文鮮明の提唱ではじまった。その提唱「絶対的価値の探求と新世界の創造 国際ハイウェイの提唱」（共栄出版刊「二一世紀への挑戦」収録）は、文鮮明の母国・韓国を中心に世界を制覇しようという野心と、極端な韓国中心主義で貫かれている。

この「提唱」のなかで、文鮮明は「韓国は、統一運動を通じて四つの分野における統一を実現する能力をもっている」といい、また韓国が「これらのもの（四つ）を統一する使命を担っている」といつている。彼があげる四つの「統一」とは、「宗教の統一」「思想統一」「文化の統一」「経済の統一」である。四つの「統一」をめざす「統一運動」によって、「統一世界を形成し、地上天国を実現する」というのだ。

しかし、「宗教の統一」とは、文鮮明がメシアであるという彼らの統一協会が、世界の宗教を征服することである。また、「思想統一」とは、「勝共運動を通じて唯物共産主義を克服する思想統一」であって、「神国」であるという韓国に世界の諸国を「統一」するというもの。「文化の統一」も、韓国への「統一」で、「経済の統一」も、韓国を中心とした「新経済基盤」の上に成り立つとしている。

文鮮明は、これらの四つの「統一」について、「神国（韓国）は神の摂理を進める中で、必然的にこれらのものを統一する使命を担っている」とか、「韓国は東西文明の新基地となり、太平洋文明の中心地として登場しつつある」と述べている。

要するに文鮮明を教祖とする統一協会と勝共連合は、宗教、思想、文化、経済などの全面にわたって、彼らの「神国」である韓国に糾合「統一」し、文鮮明を神にいただく「地上天国」を実現することをめざしている。彼らはこれを「人類の理想」としている。

そして、文鮮明は、「国際ハイウェイは人類の理想を達成する一つの手段」として提唱。「世界の人々を一つに結ぶ高速輸送のネットワークをつくり、世界の至る所に一日以内で往復できるようにすれば、それだけ地上天国の実現は早いといえる」というわけだ。

◇日韓トンネルにみる大型「靈感商法」◇

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル構想は、みたとおり狂気か誇大妄想の産物としかいいようがない。だが、といって放任できないのは「靈感商法」と同じである。「靈感商法」のからくりを知れば、彼らにだまされる者がいるとは信じられなくなるが、現実には被害者はあををたない。不安や不幸、弱味につけこんで、いかにも「開運」をもたらすかのような手口を使うからだ。

今年五月に開かれた日韓トンネル研究会総会では、同研究会常任理事の清水馨八郎（千葉大学名誉教授）が講演。それも「国際ハイウェイは、二一世紀を築く新しいシルクロード」（「思想新聞」六月二十一日付）というもの。このなかでは、「何よりも重要なのは、提唱者である文鮮明師の構想の原点に帰ることである」とか、「地上天国の実現」という

〈宗教的理想〉は「世界平和街道に通じる」と述べていた。

しかし、「靈感商法」流の手口として重要なものは、そのあとのくだりである。清水は、「本事業は地球的規模のニューデールであり、世界的不況克服の役目を果たす」といい、「開運」の経済的効用をつぎのように述べている。

「わが国のカネとモノと技術は、単に国内的な内需拡大にささげるものであってはならない。トンネルの（日韓）両国に及ぼす実利的効果は計り知れないものがあり、橋元になる北九州と釜山地域の経済、文化の活性化につながる。とくに対馬はアジアECセンター、東北アジアのヘソとなる。」

今後十年以内に北朝鮮は解放されると見てよい。そうなれば北が開発した隠密、敏速な南侵トンネルの技術やノウハウは、そのままそっくり日韓トンネルに有利に利用・応用し得るものとなる。また日本側の北九州にとっても長年蓄積した石炭掘りの技術が役立ち、大量の失業労働者の救済にもなる。」

良識ある読者には笑止千万だろうが、内需拡大とかで巨大プロジェクトに狂奔している日本の財界や大企業が、一儲けの「開運」にあずかりたがりそうな話ではある。名誉教授の肩書をもつ清水の正体は、多くの人が知らない。だが、彼は勝共連合東京・新宿支部長であり、アカデミー常任理事やいくつもの偽装関連団体の役員を兼務する、れっきとした文鮮明の下僕である。

現実に、彼らの手口に乗せられて「開運」にあずかろうと

いう手合いが少なくない。日韓トンネル研究会の「設立総会報告書」によると、その設立総会には谷川和穂防衛庁長官（当時）をはじめ、自民、民社両党の国会議員三十五人が列席。設立発起人には、「靈感商法」の元締め会社のハッピーワールド社長らとともに、熊谷組、奥村組、日本工営などの建設開発会社、あやしげなコンサルタント会社、富士通や日商岩井などの大企業や鉄建公団などの幹部が加わった。

国際プロジェクト・日韓トンネル構想は、みたとおり、彼らの「宗教」「思想」「文明」「経済」などを満載した、国際的謀略の「事業」の一つである。大掛りな「靈感商法」であり、彼らの「宗教活動」や「政治活動」「経済活動」などを有機的にからませている。とくに彼らの「政治活動」は、「靈感商法」に負けず劣らずの「靈感政治」であり、日韓トンネルがその一端をのぞかせている。

明るみになっていく「靈感商法」の被害は甚大だが、国民にとって難儀な被害はその「靈感政治」だろう。彼らは、日本の野心的な政治家などと結託し、いくつもの偽装関連団体をおとしてその「靈感政治」を展開しており、日本の将来にかかわる。

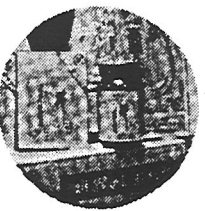
恐るべき「靈感政治」の浸透

特集■〈徹底批判〉勝共連合・靈感商法 第二弾

わが「原理」とのたたかい

〈座談会〉

浅見定雄／駒木悠二／日隈威徳



日隈 本日は、靈感商法で社会的批判を集めている国際勝共連合Ⅱ原理運動からの救出活動のなかで努力されているおふたりの先生にご出席いただいて、実際にその活動のなかで経験されたことや、実感されたことなどをお話しいただき、国際勝共連合Ⅱ原理運動の実態に迫ってみたいと思います。

駒木先生は数学・情報工学がご専門ですが、数学の先生がなぜ原理運動批判に関わるようになったのか、そのキッカケをお伺いしたいと思います。

■ゼミの学生が突然家を出して：■

駒木 私の場合は、一九八五年の初め頃、東大に勤めている知人が「東大新報」をどうして無料で配布できるのかを配布している人間に聞いたところ、「広告収入でやっている」という返事だったので、広告を出しているホルプ出版に出稿を止めてもらうことはできないものだろうか、私に相談してきたのがそもそのキッカケでした。以前から原理運動くらは知っていましたので、ホルプと連絡をつけたところ、以前東大で世界の教科書の展示会をやったとき、「東京大学

は4デイズや7デイズを終わつたものは必ず「原理講論」を持っていたのですが、近頃では、集団生活をする、つまりホームに入居した者でも「原理講論」を持っていませんね。

■「日韓トンネル」のカラクリ■

日隈 勝共連合の国家機密策定を狙った運動など、さまざまなかきについては、この特集の別のところで扱われると思いますが、ひとつ気になることとして、最近「原理」の学生がよく韓国にいつているようですね。韓国での反全斗煥独裁闘争の高揚とも無関係の動きではないと思います。

駒木 彼らの政治的な狙いはなんなのでしょうか。まさか文鮮明が、本気で世界の王になると思っているのではないのでしょうか。

浅見 文鮮明個人は、とにかく常識はずれの人間ですから、できれば韓国の大統領くらいにはなりたいたいという夢想は抱いたことがあるのではないのでしょうか。一時、軍事独裁政権下の南米ウルグアイに、せっせと投資をしていました。アメリカにも居にくくなったとき、あそこにも本拠地を移して、軍事政権を陰であやつる「院政」でも敷きたかったのでしょうか。しかしウルグアイの政情も選挙によって変わってしまった。

するとあとは、かつての「淫教のメシア」がいまやばくだいな資金を手にし、そのため日本などでは評判を落としたものの、その分だけいっそう日本を含む「自由主義」諸国の反共勢力にサードビズすることで自分を認知してもらおうと同時

に、それらの勢力へ恩を売って影響力を強める——というあたりが彼（ら）の狙いなのではないでしょうか。

日隈 韓国との関係では、例の「日韓トンネル」——日本と韓国とを海底トンネルでつなぐという計画——の動きもありますか……。

浅見 この「日韓トンネル」についてはバカバカしい笑話がたくさんあります。私が得ている信頼できる情報によると、第一に統一協会は、あのトンネル事業を始めるのに、実際は距離にして二百何ほどの土地しか手に入れていません。それ以上掘ったら、他人の土地を侵害することになります。第二に、トンネルそのものが二十何ほどしか掘ってありません。第三に、そのトンネルの角度が、もしそのまま掘ると海面上に出てしまえばかりでなく、方向もまっすぐ韓国方向ではなく、日本海のはるか東側へ行ってしまうというのです。第四に、あそこでトンネルを掘っている人間やトラックや機械の数が、まるで市町村の道路工事程度で、そのうえトンネル掘りが専門の人間はどうもひとりだけらしい。第五に、そもそも国際間のトンネルというものは、もし本気なら、実際に掘り始める前に当事者である両国の政府間で、気の遠くなるようなたくさんの話し合いをして合意に達しなければならぬ。もしそうしないで一民間団体などが勝手に他国へ向かって海底トンネルなど掘りはじめたら、それこそたいへんな国際問題になります（そのことを逆に利用したのが、「北韓が三八度線をこえてトンネルを掘った」という韓国の現政権や勝共側の宣伝でした）。

ですから一説によれば、彼らはそんなことは初めから百も承知のうえで、とにかくトンネルを掘った跡を残し、あそこを公園のようにして信者たちの聖なる巡礼地に仕立てて、「これが文鮮明先生の偉大なる夢でしたが、共産主義勢力の妨害により、このように未完の記念碑となりました」などというつもりらしいです。